

第15回 エックス線被ばく事故検討WG 議事概要

1. 開催日時：2022年2月16日（水）午前9時00分～10時00分
2. 開催場所：Zoom を用いたオンライン開催
3. 出席者：（順不同、敬称略）
飯本武志、古渡意彦、山口一郎、榎本 敦、浜田信行、橋本 周、秋吉優史、阪間稔、小田啓二、笠井 篤、小嶋光明、川島恒憲、福土政広、高橋賢臣、五十嵐 悠
4. 紹介資料
資料1 日鉄エックス線事故の論点
資料2 企業活動の視点：品質マネジメントシステムの中での放射線管理
5. 議事
(1) 意見発表
資料1に基づき、橋本委員より労働安全の観点からのエックス線事故の論点について説明があった。
 - 事故の検討についての観点として、エックス線装置の管理について IAEA SF-1（安全原則）及び GSR-part3(放射線防護と放射線源の安全)の「事故防止」「緊急時対応」の観点から評価を行うことを提案する。
 - 委員から以下の意見、コメントがあった。
 - ✓ エックス線装置の管理について、我が国の現状では IAEA 安全文書に基づく管理がなされていない部分もあるとの認識があり、WG での議論に基づく行政当局、エックス線装置管理者及び使用者への提言が可能であるとの見解が示された。
 - ✓ IAEA GSR では網羅的に放射線安全の取組みについて記載されているため、GSR での要求事項に従って事故の検討を進めることにより、エックス線装置の管理特有の安全管理に関する課題を検討し、我が国の規制整備や IAEA の Safety Guide などの将来的な質の向上に貢献することが期待される。資料2に基づき、川島委員より品質マネジメントの観点からの放射線管理について紹介があった。
 - 企業活動の基本であるマネジメントシステムの中での放射線管理では、真因追及及び再発防止対策が取られるが、真因追及・再発防止対策は根本原因分析を通じて達成される。この観点から今次エックス線事故についての検討を進めることの提案があった。
 - 委員から以下の意見、コメントがあった。
 - ✓ 小規模施設における根本原因分析の実施可能性について質問があり、小規模施設においても関係者間の聞き取り調査を適切に行うことで達成できると回答があった。
 - ✓ エックス線装置のインターロックに関する現状について質問があった。工業・診断・研究分野の各方面で使用される装置毎にインターロック機構の考え方に大きな差異があり一義的に議論することは難しいこと、また、点検・使用時に、点検者・ユーザーが能動的にインターロックを切断することが可能なエックス線装置があり、それらは被ばく事故につながりやすいとの説明

があった。

(3) その他

- WGメンバーに配布していた第14回WGの議事要旨を確認し、承認を得た。
- 日本保健物理学会(6月中)及び日本放射線安全管理学会(6/16)のシンポジウムにおいて本WG経過報告の提案があり、両学会会員に興味を引く内容でWGの活動及び議論を紹介できるよう事務局で調整することとなった。
- 第16回は2022年3月4日(金)午前9時00分～10時00分の開催を予定している。

以上